

第6学年 国語科学習指導案

平成27年10月23日 第5校時

第6学年2組 27人

指導者 略

1 単元名 「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」(東京書籍6年下)

2 単元目標

- 自分たちの身近にある町の未来に関心をもち、教材文や本を読んだり資料を調べたりして、その内容を相手に伝えようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- プレゼンテーションをするという目的意識をもちながら、文章の内容や要旨をとらえたり、自分の考えと重ね合わせながら読んだりすることができる。(読むこと(1)ウ)
- 意図が明確に伝わるように、プレゼンテーションの構成や資料の示し方を工夫し、場に応じた言葉遣いや話し方ができる。(話すこと・聞くこと(1)イ)
- 文や文章には目的に応じた構成があるということについて理解することができる。(言語に関する知識・理解・技能イ(キ))

3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、「自分たちの身近にある町の未来についてプレゼンテーションを行う」という言語活動を設定した。より良いプレゼンテーションを行うために必要な情報を的確に集める力、集めた情報を自分の発表の意図に合わせて取捨選択したり加工したりする力を伸ばしたい。また、複数の資料から読み取った情報を適切に活用していかに効果的なプレゼンテーションを行えるかということなどの情報活用能力を育てたい。

4 教材設定の理由

本教材は、自分たちの身近にある町の未来について考えることを題材にし、資料などから得られた情報を効果的に活用してプレゼンテーションをすることをねらいとしている。教材文や地域の町づくりについての資料を読んだり、調べた事をもとにして図表や統計資料などを適切に活用したりしながら、自分たちが描いた町の姿について発表する活動である。聞き手の理解を深めるために、話し方や資料の選び方、さらにその提示の仕方などについて工夫させたい。話し手が一方的に説明するのではなく、聞き手の反応を確かめながら、表情や目配り、時間配分などにも留意し、話すことを学ばせたい。題材設定を身近にある町とすることで、子どもたちの学習意欲が高められると考える。

本学級では、学年当初に比べ、グループ学習での話し合いを活発に行うことができるようになり、自分の考えをはっきりと発表する児童も少しずつ増えてきている。一方で、自分の意見をもちながらも発表できない児童もおり、主張の強い児童の意見に学級の意見が左右されることもある。朝の会のスピーチでは、始めに何について話すかを言ったり、内容からクイズを出したりして、聞き手の関心をひくための工夫ができるようになってきている。しかし、自分の伝えたかった内容がしっかり伝わっているか確かめたり、聞き手の反応を感じながらスピーチしたりするまでには至っていない。他の児童の発言を受け止め、自分の思いや意見を伝え合うことで考えを深めることについてはまだまだ課題が残っている。

プレゼンテーションの題材を決める際には、保護者や地域の人に「町の好きなおところ」、「町に足りないところ」、「地域活動への参加」を問うアンケートや聞き取りを行い、人々の生活の様子や思いをつかませたい。地域の課題に気付いたり人々の願いを知ったりすることで、自分たちに身近に関わることとして捉えることができるかと考える。並行読書では、様々な町の取り組みや地域の特徴を資料から読み取り、自分たちが取り組みたい内容を考えさせる。発表内容を考える際には、意図を明確に伝えたり、聞き手の興味を引き付けたりするために、

話し方や資料の見せ方を工夫させたい。また、ワークシートを用いて発表練習をする場面では、個人の気付きに他の児童が意見を付け加え、活発な意見交流をし、互いを認め、考えを深めさせたい。この活動を通して、発表のよかったところや向上させたいところを知り、聞き手を意識し自信をもって発表できるようにしたい。プレゼンテーションを行った後、実行する際に考えられる工夫や予想される課題についても話し合う。具体的な助言や提案ができるよう聞き合い、話し合うことで内容をより充実させることができると考える。

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
① 自分たちの身近にある町の未来に関心を持ち、教材文や本を読んだり資料を調べたりして、その内容を相手に伝えようとしている。	① プレゼンテーションをするという目的意識をもちながら、文章の内容や要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えと重ね合わせながら読んだりしている。 (ウ)	① 町作りについて、考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付けている。(ア) ② 聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図をとらえて自分の意見とくらべながら発表を聞いたりする。(イ) ③ 発表の方法や内容について、互いの立場や意図を明確にして話し合う。 (エ)	① 目的に応じた文章の構成について理解している。(イ(キ))

6 単元展開 (全 15 時間)

次 (探求的プロセス)	時間	学習活動	評価規準				評価方法
			関心 意欲 態度	読む	話す 聞く	知識 理解 技能	
一 とらえる	1	プレゼンテーションを知ろう					発言 行動観察
		学習の見通しを立てる <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P. 129・130 を読み、「自分たちの町の未来についてプレゼンテーションをする」という学習課題を確かめる。 プレゼンテーションの動画を視聴し、見通しを立てる。 	①				

二 とらえる	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	<p>「町の幸福論」を読み、内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文を通読し、序論・本論・結論の文章構成をとらえる。 文章の内容を読み取るとともに、図表などの資料の用いられ方とその効果を確かめる。 文章の要旨をとらえ、町の未来について自分の考えを持つ。 		①		①	ノート 行動観察
三 あつめる・よみとる・まとめる	6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	<p style="text-align: center;">心を動かすプレゼンテーションを作ろう</p> <p>プレゼンテーションの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに並行して読んできたものも含め、様々な本や資料などから情報を集める。 収集した情報を整理して発表内容を考える。 プレゼンテーションに必要な資料を考える。 	①		①		行動観察
	11	<p>プレゼンテーションの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手は反応を示したり、感想や助言を伝えたりする。 助言をいかして再度練習する。 			②		行動観察 チェックシート
四 いかす	12 ・ 13 本時 ・ 14	<p style="text-align: center;">心を動かすプレゼンテーションを考えよう</p> <p>発表会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を効果的に使って、聞き手の反応を確かめながら分かりやすくプレゼンテーションをする。 プレゼンテーションを行った内容について、工夫や課題を話し合う。 	①		② ③		発表 ワークシート
	15	<p>振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級で個人の振り返りを共有する。 教材全体の振り返りをする。 			③		発言 ノート

7 本時案（全 15 時間：本時 13 時）

(1) ねらい

- ・ 資料を効果的に使って、聞き手の反応を確かめながら分かりやすくプレゼンテーションをする。
- ・ 発表内容を聞き、実行する際に考えられる工夫や予想される課題を見つけ、話し合うことができる。

(2) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
<p>1 本時のめあてを確かめ、発表や話し合いのポイントを確認する。</p>	<p>○ 発表の基本的なスキルや前時でもらった助言を確認させる。</p>	
<p>心を動かすプレゼンテーションを考えよう</p>		
<p>2 自分たちが考えた町作りについてのプレゼンテーションを行う。聞き手はプレゼンテーションの内容について、実際に行う時にできる工夫や課題について考える。</p> <p>3 プレゼンテーションの内容について話し合う。</p>	<p>○ 実際に行う時によりよくするためにはどうすればよいのか、具体的な助言や提案を考えさせる。</p> <p>○ 課題や提案が見つけない児童はプレゼンテーションを聞いた感想の発表でもよいことを伝える。</p>	<p>・ 資料を効果的に使って、聞き手の反応を確かめながらプレゼンテーションをしている。 [話聞②] (発表)</p> <p>・ 発表内容を聞き、実行する際に考えられる工夫や予想される課題を見つけ、話し合うことができる。 [話聞③] (ワークシート・態度・発表)</p>
<p>4 振り返りをする。</p>	<p>○ ワークシートにプレゼンテーションを行った感想やねり合いで気付いたことを書かせる。</p>	